

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
部長兼呼吸器センター長	大森 謙一(12月退職)
医 長	山中 秀樹

—概要—

当科は呼吸器外科学会専門医制度による認定修練施設である。対象疾患は肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍など、胸部の腫瘍性病変の他、気胸、膿胸や胸膜炎、びまん性肺疾患である。

—実績—

【外来診療】外来診療日は月、水、木であった。2022年度(2022年4月1日から2023年3月31日まで)の外来診療実績は、外来延べ患者数は1,995名であった。

【入院診療】入院病床の定数は8階海側病棟3床であった。2022年度の入院診療実績は、入院担当患者数はのべ179名(共観を含む)、主科診療患者数は138名であった。

【手術実績】中央手術室での呼吸器外科の割り当ての手術枠は、火曜日の1日枠が手術枠であった。2022年4月から2023年3月末までの手術件数は55件であった。疾患別の手術件数の内訳は表1に示した。

【気管支鏡検査】今年度は、呼吸器外科が中心となり、気管支鏡検査35件を施行した。主として透視下に気管支鏡下肺生検であるが、ICUなどの重症患者にたいする、診断目的の気管支洗浄、吸痰、異物除去、気道内出血の対応なども行った。

【抗癌薬物療法】非小細胞肺癌、小細胞肺癌の切除不能症例に対する肺癌診療ガイドラインに準拠して、化学放射線治療を施行した。毎外来ごとにおおよそ30%ほどを占めていた。

【進行期悪性腫瘍患者にたいする対症緩和療法】体力的、年齢的に積極的治療困難な患者への、初診から診断、緩和治療、在宅医や緩和病棟への紹介業務に対応した。のべ診療患者数の約10~20%を占めていた。

表1 疾患別の手術件数(2022年4月1日~2023年3月31日)

疾患	件数
肺癌	26
転移性肺腫瘍	6
縦隔腫瘍	1
炎症性肺疾患	3
膿胸	0
嚢胞性肺疾患(含 気胸)	17
胸部外傷	1
その他の呼吸器手術	2
全手術件数	55
胸腔鏡下または併用手術	49
手術死亡	1

—今年度の成果と反省点—

外科治療に加え、気管支鏡検査、抗癌薬物療法を継続した。手術症例は院内紹介例数の割合が多く、院外紹介例、や検診発見のいわゆるコインリジョン症例が少ないことは否めず、外部施設の信頼を得るべく努力が必要である。

—来年度への抱負—

呼吸器内科医との協力を深め、呼吸器疾患の気管支鏡診断、手術実績の増加をめざして努力していく。